

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271102297		
法人名	有限会社スローライフ・プランニング		
事業所名	グループホーム ぎんなん (ユニット:ありがとう)		
所在地	長崎県西海市西彼町下岳郷733番地1		
自己評価作成日	平成28年1月25日	評価結果確定日	平成28年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kanji=true&JixvosvoCd=4271102297-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成28年2月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山と海に囲まれた場所で、夏には地元の花火大会をリビングから楽しむ事ができる。敬老会では、地元のすし屋の密な協力もあり、利用者に合わせた握り等をその場で実演・披露して下さい、利用者・そのご家族・スタッフ共に喜ばれておられる姿があった。地域との繋がりをより一層、大切にしていきたい。また毎月、ご利用者の表情豊かなご様子を写真に撮り、ぎんなんだよりを作成し送らせて頂き、遠方にお住まいのご家族にも喜んでもらえるよう工夫している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関内には、職員の手作りの作品や子供たちの絵が飾られ、ぬいぐるみを置く等、近所の子供たちや友人、地域の人たちが訪問しやすい環境を作っている。代表の思いがこもった理念が全職員に浸透し、どのように接したら理念に基づいた支援ができるかを、職員一人ひとりが考えながら実践している。代表や施設長は、職員のアイデアや意見を全て取り入れ運営に活かしている。それにより、職員は活き活きと安心して支援に取り組み、職員の働く意欲を引き出している。また、施設長が中心となり、外部研修に積極的に参加し、全職員で学びを共有してケアプランに繋いでいる。地域との連携を大切に、利用者との笑顔溢れる施設である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は利用者の方が心豊かに安心して生活する為に、スタッフ全員で心一つにして目指していく指標であるが、ミーティング等を通じてスタッフに伝えているつもりであっても、実践に繋がっていない現状がある。新人スタッフでもわかりやすくより具体的な文章や言葉にするなど、検討していきたい。	「高齢者、障害者、社会的弱者であっても何ができるのかを模索し、実践の中で地域のプラットフォームを目指したい」という代表の思いを、基本理念として具体的な言葉で表し、代表や施設長が体験を通して、理念を職員に分かりやすく話している。ミニカンファレンス等で理念に沿った支援方法を話し合い、どのように接したら理念に基づいた支援ができるかを、職員全員が考えながら実践している。支援により利用者がどう変化したかをケース記録に記載して、職員一人ひとりが毎日の支援を振り返り、見直す等、理念が職員の毎日の支援に反映し浸透している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の理容店などから出向して頂き利用者の方々の散髪を行って頂いている。また、値域の方をホームの敬老会にお招きしたり、七夕の時は園児が来て下さったり、利用者の方々も喜んで下さった。	地元の花火大会をリビングから楽しむ、敬老会で地元のお寿司屋さんが利用者に合わせて握りを実演する、ハロウィーンパーティーや七夕祭りで子供達とのふれあいを楽しむ等、常に地域住民との関わりを作っている。地域住民や子供達とのふれあいが利用者の笑顔に繋がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者の状況や、ホームの活動等を報告し、様々なサービスや出席者に意見を頂き、サービスの向上に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、年に6回実施しており、利用者の方々の状況を報告したり、地域の方々や行政の方から意見等を頂いたり、消防訓練の参加や各種行事の参加協力を頂いたり、サービスの向上に努めている。消防訓練では、民生委員、市の職員の方が参加して下さった。	市役所、地域包括支援センター、民生委員、社会福祉協議会、歯科医師、訪問看護等、様々な職種に参加者で構成されている。歯科医からの感染予防の助言を受け、全体ミーティングで話し合い、清潔な環境を整える、民生委員が地域の集まりで施設の取り組みを紹介する、運営推進会議がきっかけとなり、施設長が警察署で「認知症」の話をするなど、運営推進会議が地域の連携に活かされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護や権利擁護をご利用されておられる利用者があるため、協力を得ながら取り組みを行っている。	運営推進会議等で行政との信頼関係が結ばれており、成年後見制度や身内のない方の相談、行政からの入所の相談等、行政との協働関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修やミーティング・カンファレンス等で勉強会を行い、禁止事項等資料もスタッフ各自に渡しているが、正しく理解できていない所もある。その都度、管理者やリーダーが伝え、身体拘束をしないホームを目指している。	施設長が職員に「介護職員としての心構え」や「身体拘束、言葉による抑制、高齢者虐待」について具体的に事例を交えて説明し研修を行っている。全体ミーティングで職員が「パーソンセンタードケア」や「高齢者虐待、身体拘束について」意見を出し合い、日頃の支援や声かけ等を考える機会を設けている。面会時や電話で利用者の施設での生活や状況を家族に細かく報告することで、予測されるリスクを家族と率直に話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	日々スタッフ間でケアをするにあたって虐待には注意しあっているが、第三者から見た時に地元の方言で言葉がけをしていると虐待と思われる場合もあるのではないかと思われる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業を活用して利用者のお金の管理などを依頼し、また、必要に応じて相談を行い支援をさせて頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者を中心に十分な説明、ご理解を得た上で、契約の締結を行い、その際、利用者・家族の不安・疑問に思っている事を伺うようにして、安心してご利用できるよう務めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話で利用者ご様子を伝え、家族からの意見や要望を話せる環境を作り、意見や要望を取り入れ、反映できるよう努めている。	面会時や電話等で、家族から暮らしの要望や意見、どのような支援を望んでいるかを聞き、玄関前を舗装する、カラオケを導入する、居室の窓から外がよく見えるように、家族や近隣の住民と一緒に伐採する等、家族の意見を運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等で各スタッフから意見や提案を徴集し、施設長へ相談し、検討・反映するように努めている。	代表や施設長が職員一人ひとりと直接話しをする等、職員同士が話しやすい環境がある。その中で出された職員のアイデアを全て受け入れ運営に反映している。若い目線で考えられた斬新で職員のアイデアが詰まった「ぎんなんだより」の発行やハロウィンパーティー、バレンタインの行事、トイレの改修など、職員の様々な意見や提案を運営に反映する事で、職員の働く意欲を引き出している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの努力や勤務状況を把握し、給与に反映させてくれる。時間外手当やその他能力に応じて計らってくれる。パートから正社員への道も開かれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内は勿論の事、介護福祉士会の研修やホームに講師を招くなど、研修を受ける機会を推進・確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症研修や他のグループホーム、介護福祉士会、口腔リハビリ等の研修、地域の勉強会や交流会などに参加する機会が多く、ネットワーク作りや情報交換ができる場を因る事が出来る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いや家族の願いは勿論の事「Aさんらしさ探しシート」や「11分類シート」や「ひもときシート」等を利用し本人の本当の思いに近づける様に努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事や不安等に耳を傾け、共感しながら家族との関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と相談する中で、その時必要としている支援を見極め、必要であれば他のサービスの検討や提案をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフの視点に偏らないよう、ご本人の立場で支援し、側に寄り添う気持ちで支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	スタッフが一方的に支援するのではなく、家族の協力なしでは支援は難しいことを理解しているので、常に家族に相談し協力を得ながら、家族と二人三脚で支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	途切れないようにはしたいが、家族の思いや意向もあるので、必ず家族に相談し、協力を得ている。現在は、寝たきりの方や高齢の方が増えてきたため、難しくなってきた。家族や親戚、主治医、床屋さんも馴染みの関係ではないかと考える。	玄関には犬が飼われ、利用者の癒しになっている。玄関内は職員手作りの作品や子どもが好きなぬいぐるみを置き、利用者の友人や近所の子ども達、家族、馴染みの理容師等が訪問しやすい環境を作っている。家族からの情報や職業から利用者のこだわりや大切な物を把握して、これらを生活の中に取り入れている。繋がりを継続することで利用者の残存能力が発揮できるようにケアプランに繋いでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お好きな場所でお好きなように時間を過ごしている方も居れば、リビングで新聞折り、洗濯物畳み、音楽鑑賞をする方もおられる。輪には入れられず中間的な場所で過ごす方も居る。お互いの関係を認め合って生活されているように見受けられる。利用者関係もスタッフは把握しあいだを取り持っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ターミナルケアでなくなる方がほとんどであるが、忌明けや初盆、一周忌等お参りをさせて頂いている。ホームで生活されていた写真と共にお手紙も出している。現在も退所された家族から介護保険サービスの事で相談される事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを行い、意向や希望に添えるよう努めている。困難な時、様子が変わった時等はカンファレンスを行い、スタッフ皆で11分類シート等を利用し本当の思いや望みに近づけるよう努めている。	入所時に本人や家族より聞き取りを行い、意向や思いを確認している。その人らしい環境を整え、日頃から入所者の思いを感じるよう傾聴に勤め、穏やかに過ごせるよう支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族にも尋ね、基本情報も参考にアセスメントを行っている。出来る限り馴染みの暮らし方に近づけるよう、本人や家族と相談しながら、本人に合った環境を整えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	Aさんらしき探しシートや11分類シート等を活用し暮らしの現状の把握に努めている。表情や様子、バイタル等から心身の状態を把握する努力をしている。また、一人ひとりの過ごし方を支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や医療機関、スタッフ等の意見を反映し、利用者の思いに即した介護計画を作成するように努めている。スタッフもまだまだ勉強不足な所はあるが、これからもチームで取り組んでいきたい。	11分類シートやひもときシートを使用し、本人の状況を職員一人ひとりが本人に寄り添いながら様式にまとめている。それを元に計画書が作成され、スタッフ全員で取り組める体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに即したケアの実践であり、記録でなければならないが、誰が見てもわかる内容ではなくモニタリングに活かしていない。話し合いで職員間の情報を共有しているが、記録に関してはスタッフ間で検討し勉強会や研修の機会を増やしたい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の日々の様子、家族のご意見をお聞きし情報収集に努め、必要であればその都度、カンファレンス等を利用し、その方に必要ケアが提供できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の床屋さんの方に協力を得たり、地域の医師や言語聴覚士にも訪問頂いている。口腔リハビリの研修にも参加させて頂き、歯科医の訪問指導も頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人とかかりつけ医との関係を大切にし、本人が信頼している医療機関にお連れしている。また、家族の意向をよくお聞きし、本人が判断できない場合は、家族が納得・信頼できる医療機関にお連れしている。	今までのかかりつけ医師を基本として職員による通院介助や往診が継続されている。病状に合わせた受診も行われ、受診結果も家族にその都度伝える体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活記録やバイタルチェックを通し、利用者のご様子を主治医に報告・相談し、健康管理の支援を行っている。また、非常勤で職場内に看護師がいるため、日々の様子を報告しスタッフが困った事等を相談しアドバイスを頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、安心して治療でき、早期に退院できるよう、病院のソーシャルワーカーや看護師等と情報交換や相談を行い、病院との関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時終末ケアのあり方について家族に伝えている。意思表示はその時に同意書を頂いているが、後から家族の気持ちが変わる事もあるので、家族とは十分に話し合い、主治医からも説明をし納得した上でチームで支援を行うように努めている。	入所時やターミナルの時期にあわせ主治医を通して家族に意向を聞き、書面でも確認を行っている。ターミナルの経験した職員がおり、経験が浅い職員にも不安がないよう研修が行われ、スタッフ全員が支援できる体制が整っている。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備え、職場においてリスクマネジメントの研修を行い、応急処置等、随時、施設長やリーダーよりアドバイスや指導を受け実践力を身に付けている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	定期的に訓練を行い、職員が火災時等スムーズに動けるように努めている。また、運営推進会議には地域の民生委員をお呼びし、協力等依頼している。	所轄の消防局、警察署や地元の消防団等と連携し定期的に避難訓練が行われている。日頃から地域住民とも協力し避難協力をしてもらう体制を整えている。避難用の食料や備品も整備されている。 地震や台風、水害時などほかの災害に対する避難訓練計画がなされてなかった。今後は火災以外の避難訓練も計画し、あらゆる災害備えてもらう体制を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	思いを受け止め利用者の立場に立って言葉掛けを行い対応しているつもりである。できる限り否定的な言葉掛けをせず、スタッフの視点にならないよう心掛けている。	入所時に個人情報に関する契約書を取り交わしている。日頃から利用者の方に対して傾聴を行い思いを受け止めるよう努力している。環境や思いを個別に受け止め支援ができる体制を整えている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフの思いを押し付けないように心掛け、利用者の言葉に耳を傾け、思いが引き出せるような言葉掛けに努めている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフは、利用者一人ひとりのペースを把握し大切にしている。どのように過ごしたいのか希望に沿った支援をしているが、まだまだできていないところもある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に沿って、行きつけの理容室にお連れしたり、理髪師に依頼し、その人らしい身だしなみができるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しみにされているが、重度の利用者が多いこともあり、共に準備する事は難しくなってきた。お元気な方は、下膳して頂いたりできる事をお願いしている。	刺身や出前を取ったり、馴染みのすし屋さんにもきてもらい、調理法を工夫し食べやすくして、利用者の方に楽しんでもらった。おやつなども一緒に作り、楽しく食事ができる環境を整えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を生活チェック表に記録し、摂取量が減った方は主治医に相談をさせて頂いている。水分量は特にこまめに摂って頂き、脱水症にならないよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態が清潔に保てるよう、仕上げ磨きも行っているが、口腔状態の把握は不十分なところもあり、歯科医にもアセスメントして頂き、訪問指導して頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自力で排泄しにくい方は、スタッフがお尻やお腹を軽く刺激する事により、なるべくトイレ内にて排泄の自立に向けた支援を行っている。スタッフが排泄パターンを把握し言葉掛けを行う事で、失敗されることも減少している。	排泄チェック票があり、排泄状況をスタッフ全員が把握できるようにしている。日中はトイレ誘導も積極的に行われ、お一人おひとりの能力や状況に応じた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便通を促す飲み物や果物を摂取して頂いたり、入浴時、腹部マッサージをする等自力で排便1できるよう努めている。どうしても難しい場合は、主治医に相談しアドバイスを頂いたり、便秘薬の処方をして頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせ、体調や気分なども考慮し、支援させて頂いている。夜間の希望がある方には、スタッフの勤務の関係で今のところ希望に添えていない。	季節に応じた入浴剤を利用し、入浴が楽しめるようにしている。一人ひとりのペースにあわせて入浴支援が行われ、入浴拒否があっても身体の清潔を考え、個別に支援を行う環境が整えられている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの生活習慣やその時の状況に応じて、休息したり休んで頂く等、利用者に合わせて支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援を行うと共に、新しい薬が追加された時は、その経過を主治医に報告し指示を仰いでいる。また、利用者一人ひとりが使用している薬を把握し、症状に変化があれば、主治医に相談をさせて頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる限り、日々を生き生きと過ごして頂けるよう、一人ひとりにあった気分転換や楽しみ事を提供している。また洗濯物を畳んで頂く方や食事の下膳をする方等、その人の力を生かし役割を持つ事ができるような支援をさせて頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の利用者の気分や希望に沿って短い時間ではあるが、戸外に出掛けている事もある。また、季節に応じた花見など、ドライブに出掛ける事もある。ご本人の意向に沿えない場合でもICFの視点に立ちスタッフ間で話し合いより良い支援ができるよう努めている。	利用者の状況にあわせ出かけたときはユニットごとに車で外出したり、個別にスタッフが対応し買い物など楽しんでいる。定期的に家族や施設全体での外出も企画され、個別や集団でも外出も楽しめる環境が整えられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の大切さは皆さん十分わかっているが、管理が難しくなってきたりの方は、ご家族の同意でホームで預かったり、管理が可能な方は、ご自分で管理して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をしたい時は、スタッフがお手伝いをさせて頂き掛けて頂いている。最近は申し出が少ないが、ご家族から電話を楽しみでされている方もおり、連絡がある際は、ご本人がやりとりをできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングのソファや玄関のソファなど、利用者はお気に入りの場所で過ごされており、玄関やリビングに季節の花を活けたりさせて頂くこともあり、楽しんで頂いている。トイレ、リビングなど共有空間は十分な広さや明るさを確保している。	季節に応じた行事や飾り物が展示されていたり、子供たちが書いた絵などが貼られ、暖かい雰囲気がある。懐かしい曲や昔の映像がテレビから流れ馴染みの曲を口ずさんだり、利用者の皆さんとひと時を過ごせる環境を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの中に食事の席とソファを別に設け、利用者が思い思いに過ごせるような環境作りを工夫しながら行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、使い慣れたものを持参して頂いたり、馴染みのある環境作りに配慮し、ご家族と一緒に写った写真を、目につく所に飾ったりと居心地良く過ごして頂けるような工夫をさせて頂いている。	外の景色をゆっくり眺められる窓があり、部屋の中に居ても季節が楽しめる。馴染みの家具や家族の写真があり、スタッフが書いた本人の似顔絵なども張られ、ゆったりと過ごせる環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行に不安がある方には、居室内にポータブルトイレを設置させて頂いている事で、安全に自立排泄が可能となっている。自立に不安がある方も、洗面などご自分でできるよう工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271102297		
法人名	有限会社 スローライフ・プランニング		
事業所名	グループホーム ぎんなん(ユニット:おかげさま)		
所在地	長崎県西海市西彼町下岳郷733番地1		
自己評価作成日	平成28年1月24日	評価結果確定日	平成28年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kanji=true&JigyosyoCd=4271102297-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成28年2月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者のアセスメントを行うにあたり、『Aさんらしき探しシート・11分類シート・ひもときシート』等を用いる事で、利用者の本当に望まれている事を考え、チームでケアを行っている。施設の立地として、景観が良く利用者の方に四季を感じて頂く事が出来る様になっている。海や山を眺める事ができ、夏にはリビングの窓から地区の花火大会を楽しむ事が出来る。当ホームでターミナルを望まれる方は、地域のDrや訪問看護ステーションと連携を取りながら、ターミナルケアをさせて頂いている。スタッフの年齢層は幅が広いが、理念を意識し同じ方向性の基、チームケアを行うよう努力している。今年に入りカラオケの機械を導入し、専属のインストラクターの方によるレクリエーションを行い、今以上に健康を意識し運動をして頂く良い機会を設けさせて頂く事が出来る様になった。日々の生活の中に、如何にして利用者の方々

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域において認知症の方が心豊かに安心して生活するために、理念はスタッフ全員で心をつなげ、一つにし目指していく指標であるが、ミーティング等を通して伝えているつもりではあっても、実践に繋がっていないのが現状である。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の病院、掛かり付け医の方とも連携を取ったり、運営推進会議や消防訓練にて民生委員や行政の方とも交流させて頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して発信している。今後は、認知症サポーター養成講座を開き、認知症に対する理解を深めて頂く努力を行っていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の現況報告は勿論、ホームにおける行事や取り組みを通して利用者へのケアを如何に行っているかの報告をし、意見を基に修正を行い日々のケアへ活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃からは連絡を密に取っていない。協力関係を築く為にも、運営推進会議に参加頂くようお願いしているが、来訪頂けない現状がある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修やミーティング・カンファレンス等で勉強会を行い、資料もスタッフへ配布しているが、正しく理解が出来ていない部分もある。その都度管理者やリーダーが伝え、身体拘束ゼロのホームを目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当ホームOJTやミーティングやカンファレンスを行い、OffJTにも積極的に参加し意識は向上している。知らず知らずのうちに言葉の虐待が無いよう注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	OJT・OffJT、ミーティング等で制度について学んでいる。必要な方に関しては管理者も含め関係者で話し合っているが、制度上の問題なのか実際に活用出来るまでに時間が掛かり、必要な時の支援が難しいのが現状である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行っており、納得して頂いている。改定がある場合は、文章でお知らせしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	市町村や国保連、社会福祉協議会等を紹介している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等で意見や提案を聴く機会を設けているが、なかなか上がってこない。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や勤務状況を把握し、給与に反映させてくれている。サービス残業は無く、時間外手当・その他手当等能力に応じて計らってくれる。パートから正規職員への道も開かれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内は勿論、介護福祉士会の研修やホームに講師を招く等、研修を受ける機会を推進・確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症研修や他のグループホーム、介護福祉士会、口腔リハビリ等の研修、地域の勉強会や交流会等に参加する機会が多く、ネットワーク作りや情報交換出来る場を図る事が出来る。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いや家族の願いは勿論のこと、「Aさんらしさ探しシート」「11分類シート」「ひもときシート」等を利用し、本人の本当の思いに近付けるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事や不安等に耳を傾け、共感しながら関係作りに努めている。面会時は勿論、利用者に特変等が起こった場合は、その都度連絡を取って伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテークが大切だと考える。その時必要としている支援を見極め、支援を行っている。基本情報が大切だと考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフ視点に偏らないよう、本人の立場で支援し、いつも傍に寄り添う気持ちで支援している。パーソンセンタードケアを常に念頭に置き、ケアを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	スタッフが一方的に支援するのではなく、家族の協力無しでは支援は難しい事を理解しているので、常に家族に相談し協力を得ながら、家族と二人三脚で支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	途切れないようにはしたいが、家族の思いや意向もあるので、必ず家族に相談し協力を得ている。現在は、ほぼ寝たきりの方や超高齢の方が増えてきた為、近所を散歩するくらいで実現がかなり難しい。家族や親戚、主治医も馴染みの関係と考えている。長年働いているスタッフも、馴染みの関係になっているように思う。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	好きな場所で好きな様に時間を過ごされたり、リビングにて新聞折りやTV鑑賞、書き取りをされたり、気の合う方同士談話されたり、輪には入らず中間的な場所で過ごされる方もおり、個々が自由に過ごされている。お互いを尊重し合って生活されている様に見受けられ、利用者の関係をスタッフは把握しているので、間を取り持ち、楽しく過ごして頂ける様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ターミナルケアで亡くなる方がほとんどで、忌明けや初盆、一周忌等にお参りをさせて頂いている。ホームで生活されていた写真と共にお手紙も出している。現在も、退所された家族から介護保険サービスの事で相談される事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを行い、意向や希望に沿える様に努めている。困難な時や、状態が変わった時等はカンファレンスを行い、スタッフ皆で11分類シート等を利用し本人の本当の思いや望みに近付けるように取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族にも尋ね、基本情報も参考にアセスメントを行っている。出来る限り、馴染みの暮らし方に近付けるよう、本人や家族と相談しながら、本人に合った環境を整えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケース記録を付ける事により、スタッフ皆が現状を把握でき、皆で情報を共有する事が出来ている。毎日の表情や様子、バイタルサインから心身状態の把握を行っている。Aさんらしさ探しシート・11分類シートなどを活用し、出来る部分出来ない部分の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や医療機関、スタッフ等の意見を反映し、利用者の思いに即した介護計画を作成するよう努めている。スタッフもまだまだ勉強不足などところはあるが、これからもチームで取り組んでいきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録の様式が、以前よりも更に利用者の事を考える内容の物となりモニタリングに活かしやすくなっている。申し送り時や、カンファにてその都度、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現況が、なかなか散歩にお連れする事が難しくはあるが、その時その時に生まれるニーズに対しては機敏に対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	口腔リハビリの研修に参加し、地元の歯科衛生士より週に1回訪問指導を受けている。消防訓練を通して地域の方に利用者の顔を覚えて頂き、地域ぐるみで利用者を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望、掛かり付け医との関係を大切にしている。定期受診へお連れするのは勿論、特変時には早急に連絡を取り病院へお連れしたり、ターミナル期に入られた方には、訪問診察を受けて頂く等の支援をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護師はいないが、訪問で来られる看護師がおり、その時に日々の様子を報告し、スタッフが困った事等を相談しアドバイスを頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、安心して治療でき、早期退院が出来る様に、病院のソーシャルワーカーや看護師等と情報交換や相談に努めている。また、日頃からDrとの信頼関係を作れるように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にターミナルケアの在り方について、家族に伝えている。意思表示は、その時に同意書を頂いているが、後から家族の気持ちが変わる事も有る為、家族とは十分に話し合い、主治医からも説明をし、納得した上でチームケアを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職場においてリスクマネジメントの研修を行い、応急処置など随時、ケアマネジャーやリーダーから指導やアドバイスを受け、実践力を身に付けている。昨年末にAEDを導入時に指導も受け、後は本番に備えて各自シミュレーションを行っておく事が課題である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	防火管理者が退職し、新たな管理者の設置が急務である。利用者の命に係わる事なので、計画書を再確認し、1年に6回は避難訓練を行う必要があると考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	思いを受け止め利用者の立場に立って言葉掛けを行い、対応しているつもりである。出来る限り否定的な言葉掛けをせず、スタッフの視点にならない様に心掛けている。お一人お一人に合った言葉掛け、ケアを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフの思いを利用者に押し付けず、利用者の思いに耳を傾け、本人に決定して頂く様に働きかけている。普段の会話の中から、本人の思いを聴かせて頂いたり汲み取ったりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフは、利用者お一人お一人のペースを把握し大切にしている。希望に沿った支援を行っているが、まだまだ出来ていないところもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方に合った、身だしなみの支援を行っている。希望に沿って理髪師に依頼したり、ご自分で髭剃りや爪切り等が難しい方にはお手伝いをさせて頂く事で、清潔感を保持して頂いたり、衣類に関しては気掛けておき、家族にお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しみにされているが、重度の利用者が多い事もあり、共に準備をする事は難しくなっている。お元気な方はテーブルを拭いたり、下膳して頂いたり、出来る事をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士に相談し、バランスの摂れた食事の提供に努めている。食事量や水分量は、生活チェック表に記入し、スタッフ間で確認し合っている。水分量は細目に摂って頂き、脱水症にならない様に配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	肺炎になるリスクを少しでも回避出来る様に、毎食後必ず口腔ケアを行っている。まずはご自分で行って頂き、その後スタッフがお手伝いさせて頂く事もある。歯科医にも相談し訪問して頂いたり、口腔リハビリの重要性も理解している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	スタッフの支えで立位が可能だったり、座位保持可能である方は、トイレで排泄されており、スタッフが排泄パターンを把握し言葉掛けを行う事で、失敗も減少している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	果物も提供している。『白樺体操』は毎日行っているが運動量が少ない為、入浴時に腹部マッサージをする等、自力排便出来る様に努めている。どうしても難しい場合は、主治医に相談しアドバイスを頂いたり、便秘薬を処方頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の様子やタイミング、利用者の意思に合わせて支援を行っている。特定の曜日は決めていないが、日中に入浴提供を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分で意思表示が出来ない方に関しては、昼寝や休息を促させて頂き、体を休めて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日頃の様子に特変ある時等は、薬剤情報の再確認を行い、必ず主治医に報告・相談し、指示を仰いでいる。新たに薬が追加・中止となった場合は、利用者の様子・状態の変化に要注意しながらケアを行い、主治医へ経過報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る限り、日々を生き活きと過ごして頂けるよう、個々に合った気分転換や楽しみ事を提供している。洗濯物たたみや、食事の下膳、テーブル拭きをして頂ける方等、その人の力を活かした役割を持つ事が出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の利用者の気分や気分に沿って、短い時間ではあるが、戸外に出掛けている。特に春先は、機会を多く持つ事が出来た。もう少し、地域の方と協力できる体制を整えたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の同意によりホームで預かり、必要な時は買い物に同行している。直ぐにお金を何処かにしまわれる方もいるが、お金を持たれる事で安心される為、家族の同意の基、所持して頂いている。お金の大切さは皆さん十分分かっているが、自分で支払う事が難しくなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ電話を掛けたいとの要望がある時には、スタッフがお手伝いし掛けて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が安心して生活出来るよう、またスタッフがさり気無く見守りが出来るような設計でホームを作った。窓が大きくリビングも明るい。部屋からは四季折々の季節を感じ取れ、安心して生活出来る。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者各々が、思い思いに過ごせるよう支援している。新聞や本を読んだりTVを観たり、利用者同士で談話したりされ、付かず離れずの中間的空間も工夫している。リビングにソファ等を沢山置く事で、好きな所に座って頂き、好きな様に過ごして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に、馴染みの物(湯呑、箸、衣類、家具等)が有れば用意して頂きたい事をお伝えし、お持ちして頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	“ICFの視点”でアセスメントし、「出来る事・出来ない事」を見極めながら、自立支援をさせて頂いている。バリアフリーになっており、廊下、トイレ、玄関に手摺りの設置、車椅子でもトイレの出入りがし易い様に、入り口を広くしている。洗面台は、蛇口が伸びるよう工夫を行い、車椅子の方でも使いやすい造りにしてある。		